



園だより

令和6年5月1日

目黒区立第二上目黒保育園長

時々事務所にやって来る5歳児クラスの子が、机の前で首をかしげ「この机 こんなに低かったかな」と呟きます。それから、自分の頭のとっぺんと机の高さを手で比べ「それとも 私が大きくなったのかなあ」と言いました。お兄さん・お姉さんになる実感は子どもにとって大きな喜びですが、無邪気に喜ぶのではなく、周りの環境を通して気付いたり考えたりする姿が年長児らしいなと思いながら、背が伸びたことを一緒に喜びました。

入園・進級からひと月が経ち、どのクラスの子どもたちからも園の生活に慣れてきた様子が伺えます。担任に対して“私の気持ちをどこまで受け止めてくれるの”と言わんばかりに主張してみたり、自分で出来ることも「できない」「やって」と甘えてみたりしていました。そうかと思えば「〇〇組になったらこんな事も出来るのね、すごいなあ」なんて褒められて、我先にと張り切る姿もありました。新しい環境の中で揺れ動く子どもたちの心と向き合い、安心と信頼の気持ちが遊びや生活の意欲に結びつくようお願いながら、職員もクラスや職種を越えて関わってきた1か月間でした。泣き顔が笑顔に「やって」が「やれるよ」に変わっていく過程を大切に捉え、引き続き成長の見通しを持って保育を進めていきます。

今月は0～4歳児クラスの懇談会を予定しています。お子さんの可愛さや成長の喜びを語り合い、子育ての一助となるような温かく和やかな会を目指します。



5月の予定

春の遠足

(4・5歳児クラス)

中旬 身体計測・避難訓練

【クラス懇談会】

1歳児クラス	16:30～17:30
3歳児クラス	16:30～17:45
2歳児クラス	16:30～17:30
0歳児クラス	16:30～17:15
4歳児クラス	16:30～17:45



楽しいこと おもしろい遊び みつけた

つぼみ組(0歳児クラス)

保育士が透ける布をゆっくり動かしながら「上から下から大風こい」とわらべうたを歌うと、目で追いながら“なんだろう”という表情をしています。歌い終わって子どもの顔にかかるように布をふわっと乗せると、布越しに目が合います。すると、笑顔で布を取り除き「ばあ」と顔を出して『いない いない ばあ』のように楽しむことを繰り返しています。

保育士と目と目を合わせて遊ぶことによって、安心感や触れ合う心地良さを感じられるようにしていきます。



ちゅうりっぷ組(1歳児クラス)

戸外で保育士が見つけたテントウムシを見せると、じっと観察しています。「あそこに居たんだよ」と見つけた樹木まで一緒に行くと、小さな黄色い粒がついていることに気付いた子がいました。「これはテントウムシの卵だね」と話すと“コンコン パカッ”と卵を割る仕草をします。「そうだね、卵だね」と返すと、伝わった嬉しさでニコッと笑顔になっていました。探索をじっくり楽しみながら興味関心を広げている子どもたちです。

表情や仕草で伝えようとする姿を大切にすることで、気持ちが通じ合う喜びを感じられるようにしていきます。





たんぽぽ組（2歳児クラス）

押し入れが心地良い空間となっていて、家になったり車になったりしています。中でも楽しんでいるのが『消防車ごっこ』です。ままごと玩具のボウルをヘルメット、バッグを防災頭巾に見立ててかぶり「火事です 火事です」「消防車が出動します」「はしご車になるんだよ」とイメージが膨らむやり取りが聞こえます。「あ、ジュースもいるんだった」と、消防車と全く関係のない荷物まで載せているのが微笑ましいです。散歩で訪れる消防署や園での避難訓練の経験が遊びのヒントになっています。

日頃の経験を基に友達と同じイメージを持ちながら遊びを楽しめるよう、保育士も様々な経験を子どもたちと一緒に楽しみます。



さくら組（3歳児クラス）

児童遊園で「しっぽ取り したい」とやる気満々の子どもたちです。「長いしっぽがいい」「短いしっぽにして」と、それぞれがお気に入りのしっぽを付けると嬉しそうに走り出しています。しっぽを取られると「取ってほしくない…」と悔しがったり「取られたくないから しっぽはつけない」と追いかける側に徹するなど姿は様々ですが、近頃は取られると「くやし〜」と言うものの、笑顔で楽しめるようになってきました。「もう一回しっぽつけて」とリクエストしては、笑い声を上げながら走り回っています。

遊びや友達との関わりの中で感じる悔しさに対して一緒に考え、悩んだり共感したりしながら、子どもたちの思いに寄り添っていきます。



すみれ組（4歳児クラス）

ホールや戸外での大縄遊びで思い切り体を動かしています。『うみだうみだ』という歌のあと、波に見立てた大縄が子どもたちの居る方へと迫ってきます。足元に来た縄を軽々飛び跳ねる子もいれば、慎重にまたごうとする子もいますが、波が迫ってくることにワクワクしながらどの子も汗をかくほど繰り返し楽しんでいます。楽しい気持ちが高まってくると、歌い終わりを待たずに子どもたちから大縄に近付いてくることもありました。そんな時は「ルールを守るともっと皆で楽しめるようになるよ」と伝えることで、一人ひとりが守ろうと意識する姿に変わっていきます。

楽しく遊ぶことを通してルールを守る大切さを知り、共通の遊びをたくさん経験出来るようにしていきます。



ひまわり組（5歳児クラス）

昨年度、年長児が踊っていた『荒馬』を見て憧れを抱いていた子どもたちは“自分達も荒馬を披露したい”と意気込み、4月からクラス全体で練習を始めました。4歳児クラスの頃は恥ずかしくて踊れなかったり声を出せなかったりした子も、練習を重ねることで自信をつけ、荒馬を通して自分らしい表現が出来るようになってきました。友達に「〇〇ちゃん掛け声大きく言っていたね」と褒められると「緊張したけど頑張ったよ」と本音を口にしながらも嬉しそうです。民舞に留まらず、自分で布を編んで作った縄での一人跳び練習にも熱がこもり、体を動かすことを存分に楽しんでいる子どもたちです。

一つひとつの活動に自信を持って取り組む中で表現する喜びを感じ、その先に友達の良い面も認め合えるような関係が築けるよう、丁寧に援助していきます。

